

注意点1

理論

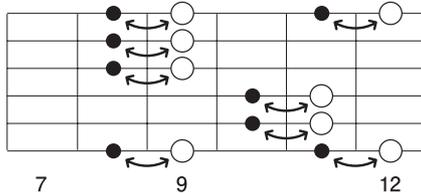
トライアドを土台にした
高速トリル・ポジション

メイン・フレーズ1&2小節目は、左手の耐久力を必要とする連続トリル・フレーズになっている。この部分はC#mのトライアドのコード・トーンになっていて、コード・トーンの半音下の音を人差指で押弦して、中指でコード・トーンをハンマリング&プリングするのだ(図1)。トリルはハンマリングとプリングを素早く弾く必要があるが、速く弾くことばかりを意識するとフィンガリングが弱まって、音が小さくなるので注意しよう。したがって、弦をしっかりと叩く&引っ掛けるようにしてもらいたい。また、1拍ごとにポジション移動していくが、人差指は押弦した状態のまま移動するとスライド音が鳴ってしまうので、フレットに少し触れた状態で次のフレットに移動するように心掛けよう。

図1 トライアドによるトリル・ポジション

・メイン・フレーズ1&2小節目

○=C#mのトライアド ●=人差指で押弦する音



トリル・ポジションをしっかり覚えて、トリルを的確に弾こう!

注意点2

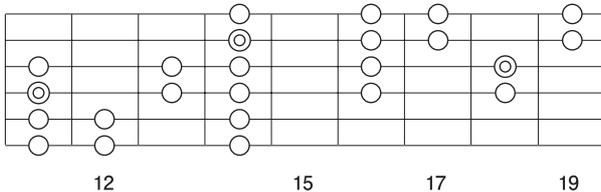
理論

事前にポジションを覚えて
高速レガートを攻略せよ!

1&2小節目の2小節間に渡るトリル・プレイに続いて、3&4小節目では6連符による高速レガート・プレイが登場する。滑らかなフィンガリングを行なうために、まずはこの上昇フレーズで使用しているC#ナチュラル・マイナーのポジションを頭に入れよう(図2)。このフレーズは3音ずつ弦移動していくので、左手は一定の動きでハンマリングをくり返すように心掛けてみてほしい。どこかの指(特に小指など)だけ速くなったり、遅くなったりすると、6連符に正確に乗れなくなるので注意すること。実際の演奏時には、指を立て気味にして演奏する【註】と滑らかなフィンガリングになるだろう。この時、ミュートは右手で行なうと良い。

図2 メイン・フレーズ3&4小節目のポジション
(C#ナチュラル・マイナー)

◎トニック=C#音



3音を1セットにして、ポジションを覚えよう!

~コラム17~

教官の戯れ言

著者はランディ・ローズのプレイを聴くと「温かさ」を感じてしまう。それはヘヴィな曲であろうが、悲しいバラードであろうが共通するのだが、おそらく彼の優しい人柄が音に出ているのではないだろうか。オジーの楽曲では、「これぞ、メタル!」と言えるハードなリフやテクニカルなソロを披露しているが、どれを聴いてもただのメタル系ギタリストとして括ることができない彼のセンスの良さや懐の深さを感じ取ることができる(クラシック・ギターを演奏していたことが理由の1つかもしれない)。そんな彼の洗練されたプレイは、死後30年近く経った現在でも学ぶべきところが多いのだ。

著者・小林信一、かく語りき
ランディ・ローズ編



オジー・オズボーン
[リザードオブオズ~血塗られた英雄伝説]
メタルの超名盤として爆然と輝くオジーのデビュー作。クラシックの要素を取り入れた美しく技巧的なギター・プレイは必聴だ!



オジー・オズボーン
[トリビュート~ランディ・ローズに捧ぐ]
ランディの死後、彼を追悼する形でリリースされたライブ盤。彼の熱い魂が爆発したような表情豊かでパワフルなサウンドが満載。

【指を立て気味にして演奏する】ハンマリングは、弦の真上から左指を真っ直ぐ降ろすように弾こう。この時、指の先端が弦を正確に捉えられるように注意することが大切だ。慣れるまでは、1拍ずつ分けて練習してみると良いだろう。